

学校
教育
目標

明るく
素直に
礼儀正しく



海老名市立杉本小学校



学 校 便 り

令和8年5月26日
校長 奥泉 憲

新体力 テスト 1.2年生

22日（金）に1, 2年生の新体力テスト（体育館種目）が実施されました。長座体前屈、反復横飛び、上体起こし、握力の4種で2年生はシャトルランにもチャレンジしました。新体力テストがスムーズに進むように1年生には6年生が、2年生には5年生が補助として付き、各種目の説明や誘導、そして記録の記入等の手助けをしてくれました。特に1年生にとっては初めての体験だったので、不安に思っている子もいたかもしれませんが、6年生のおかげで、1年生たちもののびのびと各種目に挑戦していました。テストの様子を見ていて素敵だなと感じたのは、5, 6年生たちが1, 2年生に優しくかわりながら、たくさんの励ましの声をかけてくれたこと。テスト終了時に1, 2年からお礼を言われた時の5, 6年生たちのちょっと大人びた表情が印象的でした。この様に異学年で関わることの意義は、助けてもらう側の低学年の子どもたちの頑張りはもちろんですが、支える側の高学年の子どもたちの自覚や責任等、確かな成長を感じられることです。今週29日（金）が先週延期をした新体力テスト（外種目）になります。もし当日ボランティアとしてご参加いただける方がいられたら、担任までご連絡ください。ご協力よろしくお願いいたします。

学校長 奥泉 憲



挨拶は表 情豊かに

毎朝、校門に立って挨拶をしています。子どもたちと挨拶をしていると、とても清々しい気持ちになります。子どもたちが、私の顔を見て気持ちの良い挨拶を返してくれるからです。挨拶の意義を、私自身、実感しています。

今から5年前、世の中全体がまだコロナ対応で、声を出して挨拶することさえできなかった時がありました。前任校で、その時も私は、朝、校門に立ち子どもたちを迎えていました。子どもたちは、マスク越しに誰一人として声を発することはありませんでしたが、私の顔をしっかりと見て静かに会釈をしてくれました。私も一人ひとりの顔を見ながら会釈を返していました。お互いの声は届きませんでしたが、子どもたちと心を通わせているという安心感のようなものを、私は感じていました。そんな時、以前読んだ雑誌の記事を思い出しました。「人間の赤ちゃんは相手の表情を見ながら人の行為を理解し、物事を学んでいきます。相手の顔を一生懸命に見て、心の状態まで読み取ろうとします。赤ちゃんは、表面だけではなく、人の心の状態と照らし合わせつつ、次の展開をも予測しながら感性を発達させていきます。」（京大教授 認知科学者 明和政子）

明日の朝は、声を出して挨拶ができる有難さをあらためて心に留めながら、まず私自身が表情豊かに子どもたちに「おはよう。今日もよく来たね。」と声をかけようと思っています。

学校長 奥泉 憲